〒371 前橋市上泉町 6664－4
前橋市教育委員会管理部文化財保護室
TEL 0272－31－9531

群馬県前橋市
五反田遺跡

宅地開発に伴う発掘調査報告書

1987

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は北に赤城山、西に榛名山を望見する関東平野の北部を市域とした県都である。奥利根に源を発した利根川が市域を貫流し、その支流は市域全域を潤し、「水の都」であるとともに「糸の町」として古くから養蚕製糸で栄えてきた市である。

北関東一の人口28万を擁する本市は、生涯学習都市を目指し、教育・文化・商工業の調和あるすばらしい町づくりに取り組んでおり、中心市街地の再開発事業、区画整理事業、また民間では住宅地の開発行為など生活環境の整備が進められている。この五反田遺跡の発掘調査は、民間デベロッパーが農地を住宅地に開発するため、都市計画法に規定する開発行為の申請について、市教育委員会で関係者と協議調整を計り、発掘調査を実施することになったものである。調査によって、1108（天仁元）年に降下した浅間B軽石により埋没した水田址が検出された。

本調査を実施するに当たり、㈱佐田住宅センターのご理解と協力で、記録保存を行うことが出来ましたことに厚く御礼申しあげます。また厳寒の中、発掘調査にあたられた方々に心から感謝申し上げます。

本報告書がこの地域の歴史解明の資料として、少しでも利用される所があれば幸甚であります。

昭和62年３月31日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　関　口　和　雄

例　　言

1. 本報告書は、都市計画法第29条(開発行為の許可)の規定に基づく、〝住宅地造成事業〟(施工者㈱佐田住宅センター代表取締役山田敏男) の実施に先がけた五反田遺跡として、昭和60年度発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、前橋市教育委員会のもとに組織された、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長奈良三郎）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町211―1　代表取締役　須永眞弘）が実施した。
3. 調査の要項

調査場所	前橋市箱田町1009番地の１　他２筆 全体規模　1,748㎡
調査期間	昭和60年11月21日～昭和61年１月８日
調査担当者	福田紀雄（文化財保護係長）　浜田博一（文化財保護主任） 金子正人（スナガ環境測設株式会社専務取締役）

4. 本書はスナガ環境測設㈱埋蔵文化財調査部が作成にあたり、執筆及び編集の総括を金子正人が担当し船藤享と荻野博巳が執筆と図版作成に従事した。
5. 本調査における出土遺物は一括して前橋市教育委員会が保管している。
6. 調査にご協力頂いた方々に記して感謝致します。

佐田住宅センター代表取締役　山田敏男、青木良光、
地元　石坂郁夫、里見　清、田村千代吉

7. 発掘調査に参加した方々は下記の通りでした。ありがとうございました。

今井芳生	柴崎信江	小林裕美	生方　茂	荻野博巳
佐々木智恵子	角田朱美	小川富八	新井健造	新井恒喜
志田かほる	須田シゲル	田村昭子	田村光子	梁瀬政江
谷高邦江	平出トミ子			

凡　　例

1．遺構は下記の記号で表記し、北西隅から順に呼称した。

　ＳＪ＝畦畔　　ＳＬ＝水田

2．遺構実測図の縮尺は、平面図１：100、土層断面図１：40を原則とし、その他の縮尺を使用した場合個々に表示した。

3．遺物実測図は２：５を使用した。

4．遺構及び遺物の挿図中のスクリーントーンは次の事を表す。

……　中世の通路

……　近世畦畔

……　近世水路状遺構

……　地山

5．五反田遺跡では、Ｇ－８グリットをＸ＝40744、Ｙ＝－69610としＮ－８グリットをＸ＝40716、Ｙ＝－69610を基準軸として北西隅を起点とする４ｍグリットを設定した。

6．畦畔の長さは芯々距離を測定した物である。水田面積は上記の畦畔測定値を基に算出した。

目　次

序
例　言
凡　例
第１章　発掘調査の経過 …… 1
第II章　遺跡の位置と考古学的環境 …… 1
第III章　調 査 の 方 法 …… 3
第IV章　基　本　土　層 …… 3
（エレベーション図・土層断面図）
第Ｖ章　検出された遺構と遺物 …… 8
第１節　試掘調査で確認された遺構…… 8
第２節　Ｂ軽石降下後の遺構…… 9
第３節　Ｂ軽石下の水田址……11
（水田の地形、畦畔、条里遺構、水田面、遮断水路状遺構）
第VI章　ま　と　め ……15

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡の位置…… 2
第２図　基本土層断面図…… 3
第３図　畦畔及び水路のエレベーション図…… 4
第４図　中央部土層断面図…… 5
第５図　東壁土層断面図・中央部深掘土層断面図…… 6
第６図　畦畔及び水路の土層断面図…… 7
第７図　試掘調査の位置図…… 8
第８図　Ｂ軽石降下後の遺構平面図…… 9
第９図　出土遺物実測図……10
第10図　Ｂ軽石下の畦畔平面図……12

第11図　遮断水路平面図……14
第12図　足跡実測図（1：10）……17

図　版　目　次

図版1　五反田遺跡全景　気球による空中撮影
図版2　1．第9図　No.5
2．〃　No.2　No.3
3．〃　No.4他
4．〃　No.1　他
5．近世水路より出土した陶磁器破片
6．同上
7．第12図―3　石膏　動物の足跡
8．第12図―7　石膏　人の足跡
図版3　1．J―0・1グリット付近
2．J―8・9グリット付近
3．北西隅
4．H―2・3グリット付近
5．H・I・J・K―3グリット付近
6．L―8・9、J―8・9グリット付近
7．南東隅
8．畦畔I―5・6、J―5・6、K―5・6グリット付近
図版4　1．H―1グリット足跡
2．G―0、H―0グリット足跡
3．M―8グリット溝セクション
4．H―5グリット溝セクション
5．I―5グリット溝セクション
6．J―5グリット溝セクション
7．K―5グリット溝セクション
8．I―8グリット畦畔セクション
図版5　1．H―6グリット畦畔セクション
2．H―4グリット畦畔セクション
3．J―3グリット溝セクション
4．C―4グリット溝セクション
5．C―2グリット溝セクション
6．中央ベルトセクション南端
7．中央ベルトセクション中央部
8．中央ベルトセクション北端
図版6　1．C―1グリットNo.1
2．G―2グリット畦畔セクション
3．C―4グリットNo.1
4．D―4グリットNo.1
5．G―2グリットNo.2、No.3
6．K―5グリットNo.9
7．M―4グリットNo.1
8．中央セクションション西端から撮影

表　目　次

第1表　出土遺物観察表……9
第2表　畦畔計測表……18
第3表　水田面遮断水路計測表……19
第4表　最近5年間の水田址発掘調査例……19

第Ⅰ章　発掘調査の経過(日誌より)

S60. 11. 13　五反田遺跡発掘調査業務委託契約締結

14　調査地境界立会い、柵の杭打ち作業

簡易トイレ、キャリーダンプ、ローリングタワー等作業機器の搬入

15　1：100　平面測量開始、重機にて表土掘削、排土運搬、水道工事

25　グリット杭打ち。

30　1：20　平面実測開始

12. 3　水準点設置（BM99.00m）

16　市立東小6年生見学

24　石膏にて足跡型取り。

29　空中撮影

S61. 1. 8　調査測量終了、機械器具搬出

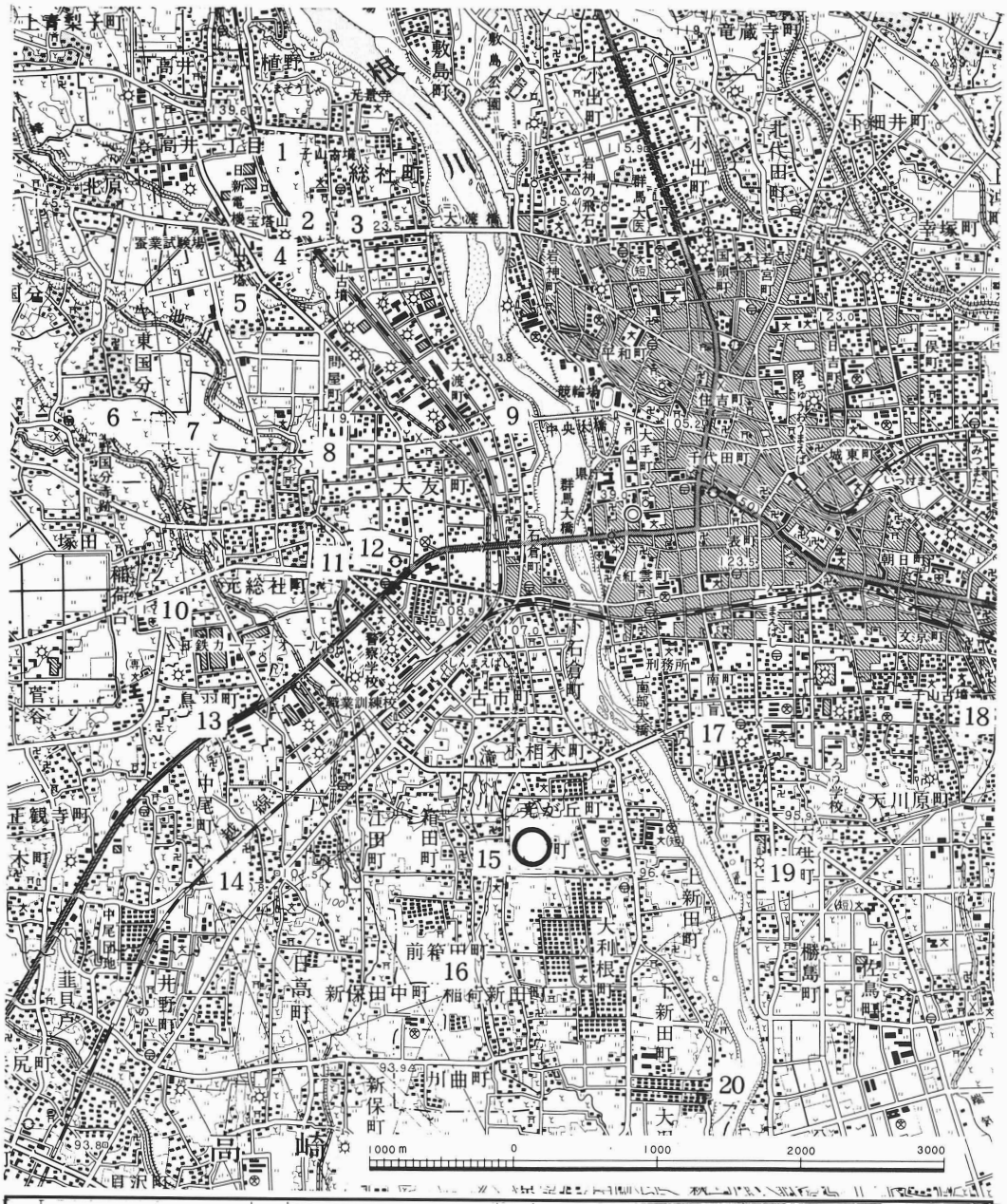
第Ⅱ章　遺跡の位置と孝古学的環境

五反田遺跡は、前橋市箱田町1009番地の1他2筆に所在し、当市域を北から南東へ貫流する利根川の右岸、上越線新前橋駅より南東約1.4kmに位置する。

地勢は利根川の東に赤城山麓、西に榛名山麓を擁し、なだらかに傾斜して関東平野に合している。榛名山最高峰掃部ケ岳（標高1,448m）の東南麓一体は相馬ケ原火山山麓性扇状地が伸び前橋台地に接している。この相馬ケ原扇状地を源とする数状の河川(井野川、染谷川、牛池川、滝川等）が南東に流下し沖積地を形成している[(1)]。この地内の関越自動車道建設に伴う発掘調査で数多くの遺跡が発見されている。群馬県と長野県境にある、浅間山は記録に見える範囲で三度の大噴火をしているが、当遺跡は1108（天仁元）年浅間B軽石降下[(2)]により埋没した水田址が検出されたものである。

現地表面の標高は約99mであり、北西から南東にかけて緩やかに傾斜している。この遺跡の西方約250mには自然河川の流路を受け継いだと考えられる滝川が南流している。この滝川は17世紀始めに灌漑用水路（天狗岩用水[(3)]）として、吉岡村漆原付近から取水し、八幡川を総社町総社地内で合流し流下しながら多くの地域を潤し前橋台地を貫流し井野川に合流する。この水田遺跡は自然河川滝川から用水を取り入れたと推測される。

近傍のB軽石下の水田遺跡を概観するに、西方約2kmに弥生以降より連綿と続く日高遺跡[(4)]、同じく3kmに正観寺遺跡[(5)]、南西へ約1kmには条里制地割との関連も考えられる前箱田遺跡[(6)]、箱田境遺跡[(7)]等がある。利根川の東方約1.5kmには中大門遺跡[(8)]があり、その他（南町）には市之坪及び一丁田という地名が残り、さらにその南東には公田の地名が残されており、条里制に係わる地名が数々見られる。また北東へ約3kmには、上野国府推定地があり、「石倉」「大友」等の国



1	総社二子山古墳	6	上野国分寺跡	11	寺田遺跡	16	前箱田遺跡
2	宝塔山古墳	7	上野国分尼寺跡	12	元総社明神遺跡	17	生川遺跡
3	蛇穴山古墳	8	閑泉樋遺跡	13	中尾遺跡	18	天川二子山古墳
4	村東遺跡	9	王山古墳	14	日高遺跡	19	中大門遺跡
5	山王廃寺跡	10	鳥羽遺跡	15	村前遺跡	20	下新田遺跡

第1図　周辺遺跡の位置

府関係の地名や、国分寺・国分尼寺、さらに山王廃寺の寺院遺跡が存在しており、本遺跡もこのような古代末期の政治的中心地と経済的基盤としての条里遺構との関連が考えられる。[9]

註

1. 前橋市史　1971年　第1巻「地形・地質」
2. 考古学ジャーナル　1979年　№157
3. 上滝遺跡　1981年　群馬県埋蔵文化財調査事業団
   天狗岩堰開鑿史　都丸十九一著
4. 日高遺跡　1978年　考古学ジャーナル　№152
   月刊文化財　10月号
   1979～1981年　高崎市教育委員会
5. 正観寺遺跡　1979～1981年　高崎市教育委員会
6. 前箱田遺跡　1982年　前橋市教育委員会
7. 箱田境遺跡　1985年　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
8. 中大門遺跡　1983年　前橋市教育委員会
9. 前橋市史　1971年　第1巻　前橋市

第Ⅲ章　調査の方法

試掘調査の結果、平安時代B軽石下の水田址と深掘の地層から判断すると、古墳時代C軽石層下の水田址の存在する可能性が考えられた。溝1条、土器片5点、石1点が検出された。

本調査では、試掘調査の結果を踏まえて、まずB軽石上面までバックホウで掘削を行い、畦畔の検出に重点を置き、注意深くB軽石を剝しながら水口、溝、足跡等の検出をおこなった。㈱佐田住宅センターの協力により近くに排土場が確保されたので全面調査もスムーズに進行した。全体図は1：100で畦畔の実測、土層断面図、エレベーションは1：20で実施し、公共座標X＝40,744m、Y＝－69,610mを基準とした。南北方向にアルファベット、東西方向をアラビア数字で表し、上記座標点を（G－8）グリットとした。

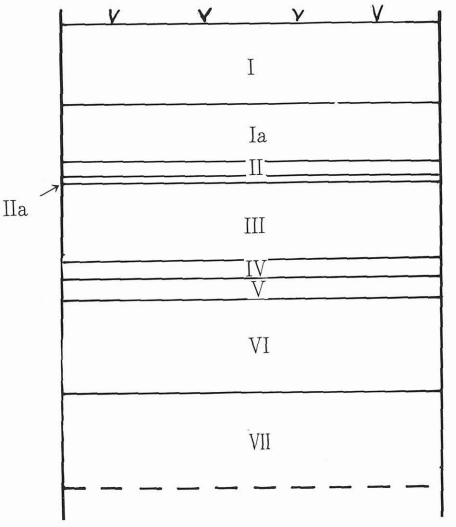
第Ⅳ章　基本土層

Ⅰ　層　灰褐色土層　粗砂　現耕作土　A軽石30％を含む。

Ⅰa層　赤褐色土層　粘性有り　比較的固くしまる、A軽石をⅠ層と同様に含み、鉄分沈澱50％を有するため赤みを帯びる。現水田の床土。

Ⅱa層　暗赤褐色土層　粘性僅か有する、細砂から礫層、固く締まる。B軽石70～80％を含む混土層、鉄分沈澱40％程度しめる。

Ⅱ　層　オリーブ褐色土層　礫層　B軽石の純層、非常に固く締まる。



第2図　基本土層断面図

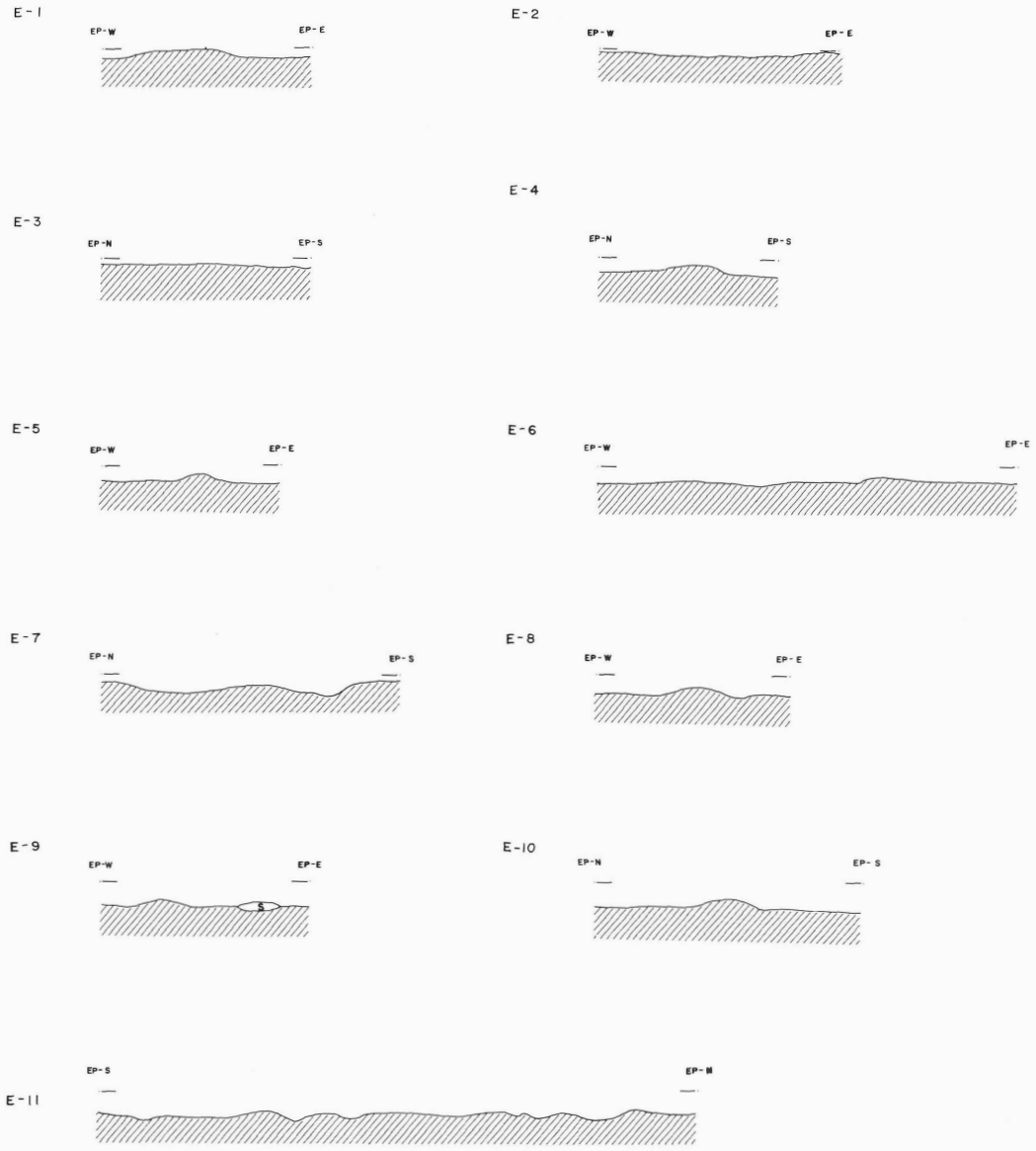
III　層　灰褐色土層　　微砂から粘土　III層の上面が平安時代の水田耕作面である。やや上面が黒みを帯び非常に強い粘性と締りを有する。

IV　層　灰黒色土層　　礫層　C軽石80%以上含む、黒色で粘性を有し固く締まる。

V　層　灰黒色土層　　粘性を有し固く締まる。V層はIV層よりも黒い。

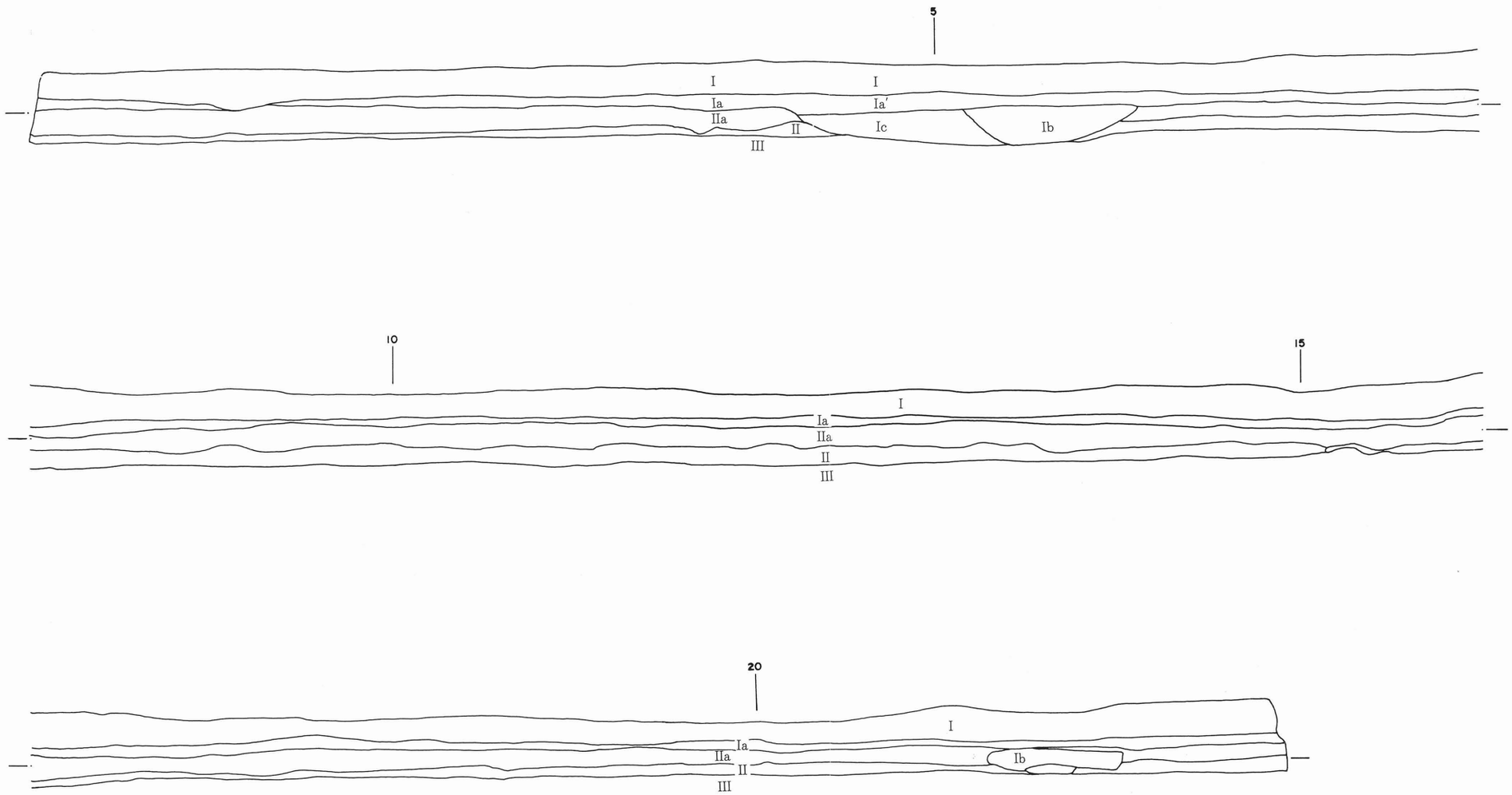
VI　層　暗赤褐色土層　鉄分の凝集がブロック状を呈す。粘性強く固く締まる。

VII　層　灰褐色粘土層　粘性が強く固く締まっている。粘土粒子は均一で混入物は見られない。



第3図　畦畔及び水路のエレベーション図

0　1　2m

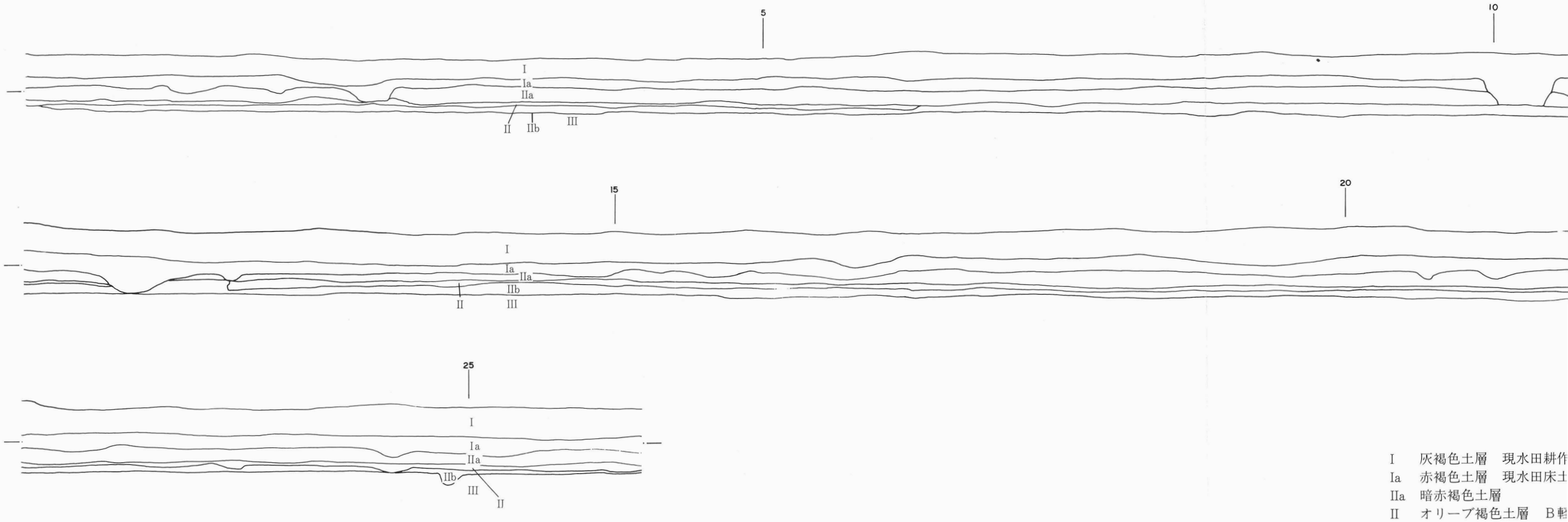


I　灰褐色土層
Ia　赤褐色土層　現水田床土
Ib　灰褐色土層　粘性有り
IIa　暗赤褐色土層
Ic　Ibより黒色を帯びる
II　オリーブ褐色土層　B軽石純層
III　灰褐色土層

L=98.50m

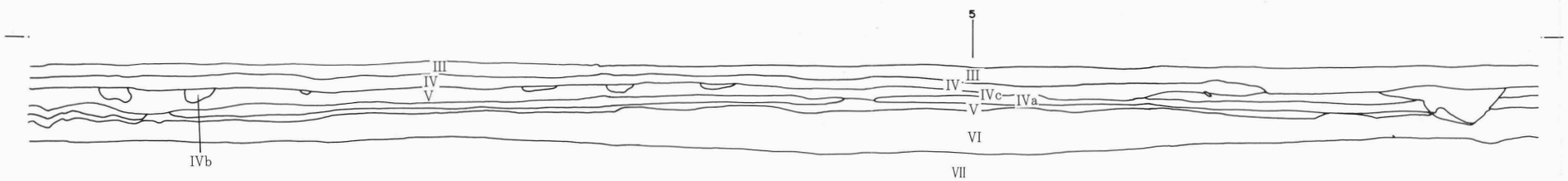
第4図　中央部土層断面図　N－S

0　1　2m



中央部深堀土層断面図　W－E

I　灰褐色土層　現水田耕作
Ia　赤褐色土層　現水田床土
IIa　暗赤褐色土層
II　オリーブ褐色土層　B軽
IIb　〃　II層の鉄分か
III　灰褐色土層
IIc　極暗赤褐色土層

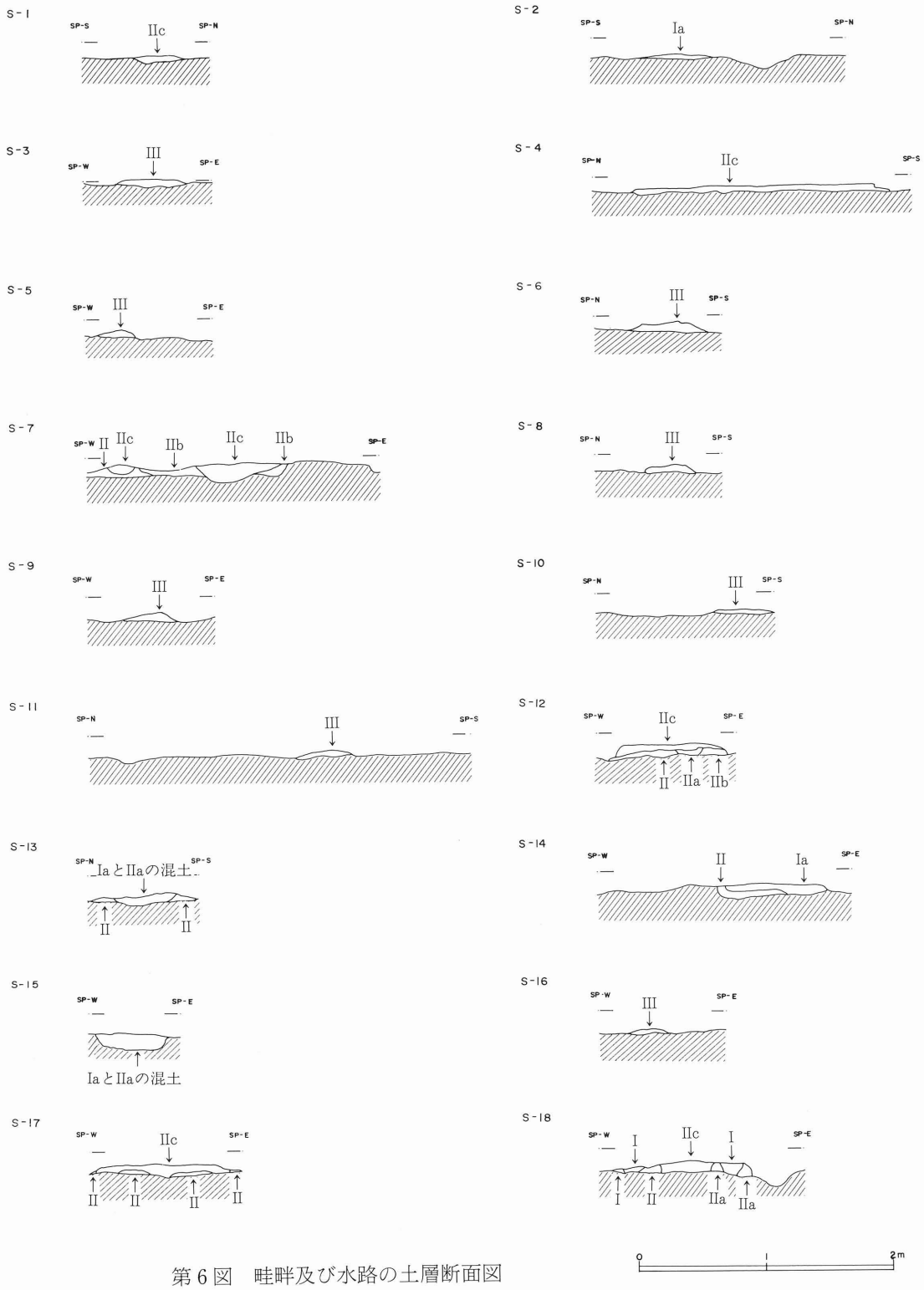


III　暗青灰色粘土層
IV　黄灰色土層　C軽石を含む
IVa　黒褐色土層
IVb　〃　黄色砂質ブロックとC軽石を含む
IVc　〃　C軽石を多量に含む
IVd　〃　C軽石を80%以上含む
V　灰黒色土層
VI　暗赤褐色粘土層
VII　灰褐色土層

L=98.50m

0　1

第5図　東壁土層断面図　N－S

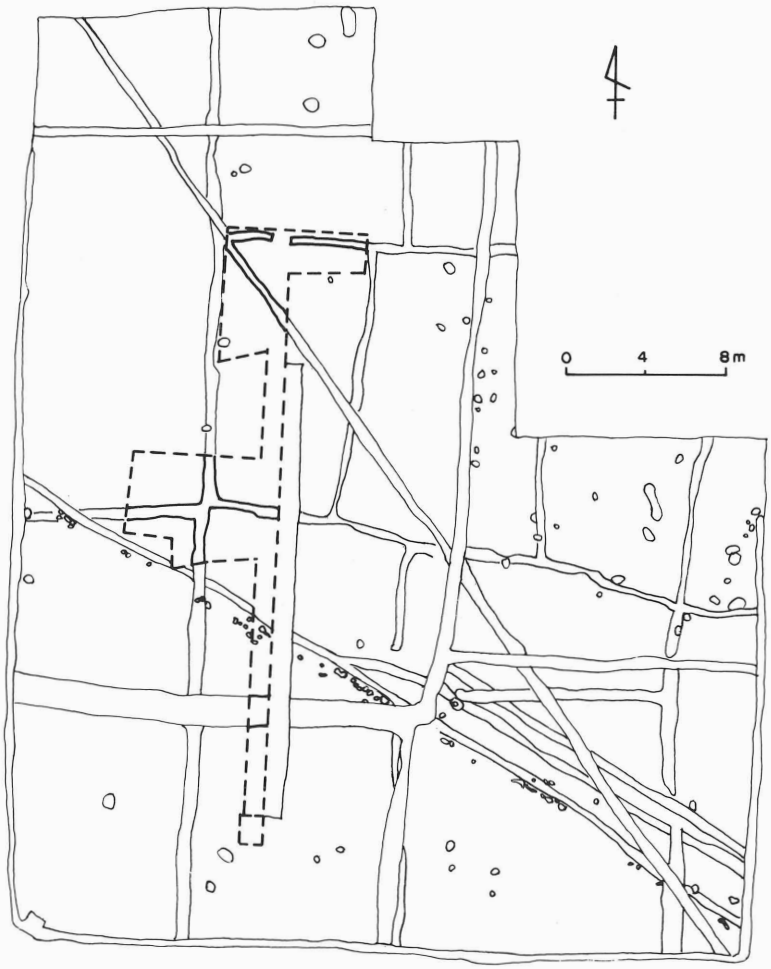


第6図　畦畔及び水路の土層断面図

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物

第１節　試掘調査で確認された遺構

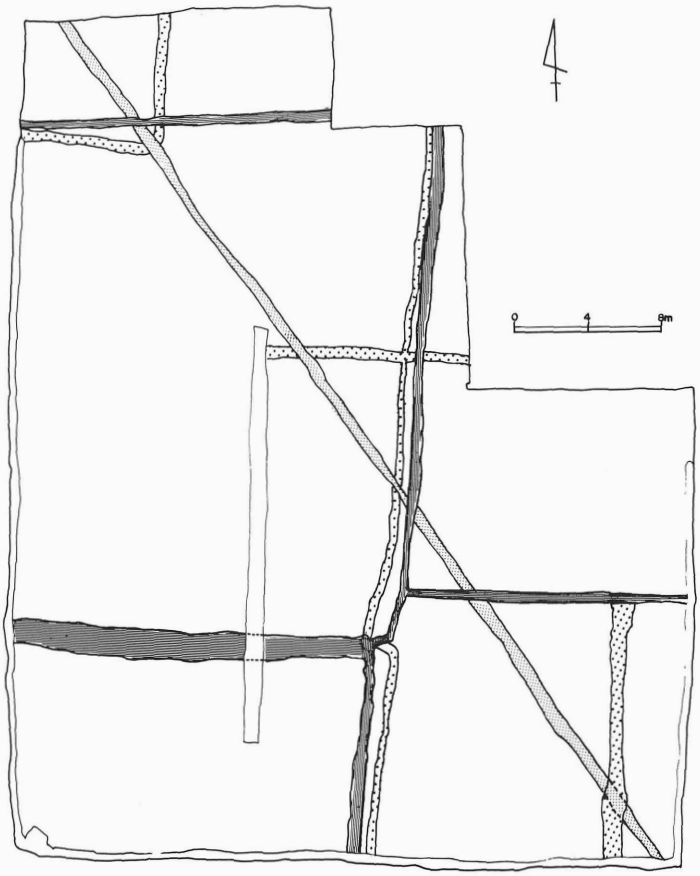
試掘調査(埋蔵文化財確認調査)を昭和60年８月23日に開発予定面積の1,748m²のうち86m²(全体の５％)について実施した。調査方法は開発予定地の東西南北に確認トレンチを幅１mで４条設定しバックホウで確認面まで掘削を行い、遺構の検出に努めた。また、地層の観察・記録を行い、遺跡の有無について検討した。記録資料として写真撮影と測量も併せて実施した。その結果、Ｂ軽石により埋没した平安時代の水田址（畦畔２ケ所）が検出された。なお深掘りの地層から判断すると、古墳時代（Ｃ軽石下）の水田址が存在する可能性も高いと考えられた。その後本調査の結果、第５図の深堀土層断面図に示したようにＣ軽石下の水田遺構は検出されなかった。



第７図　試掘調査の位置図

第２節　Ｂ軽石降下後の遺構

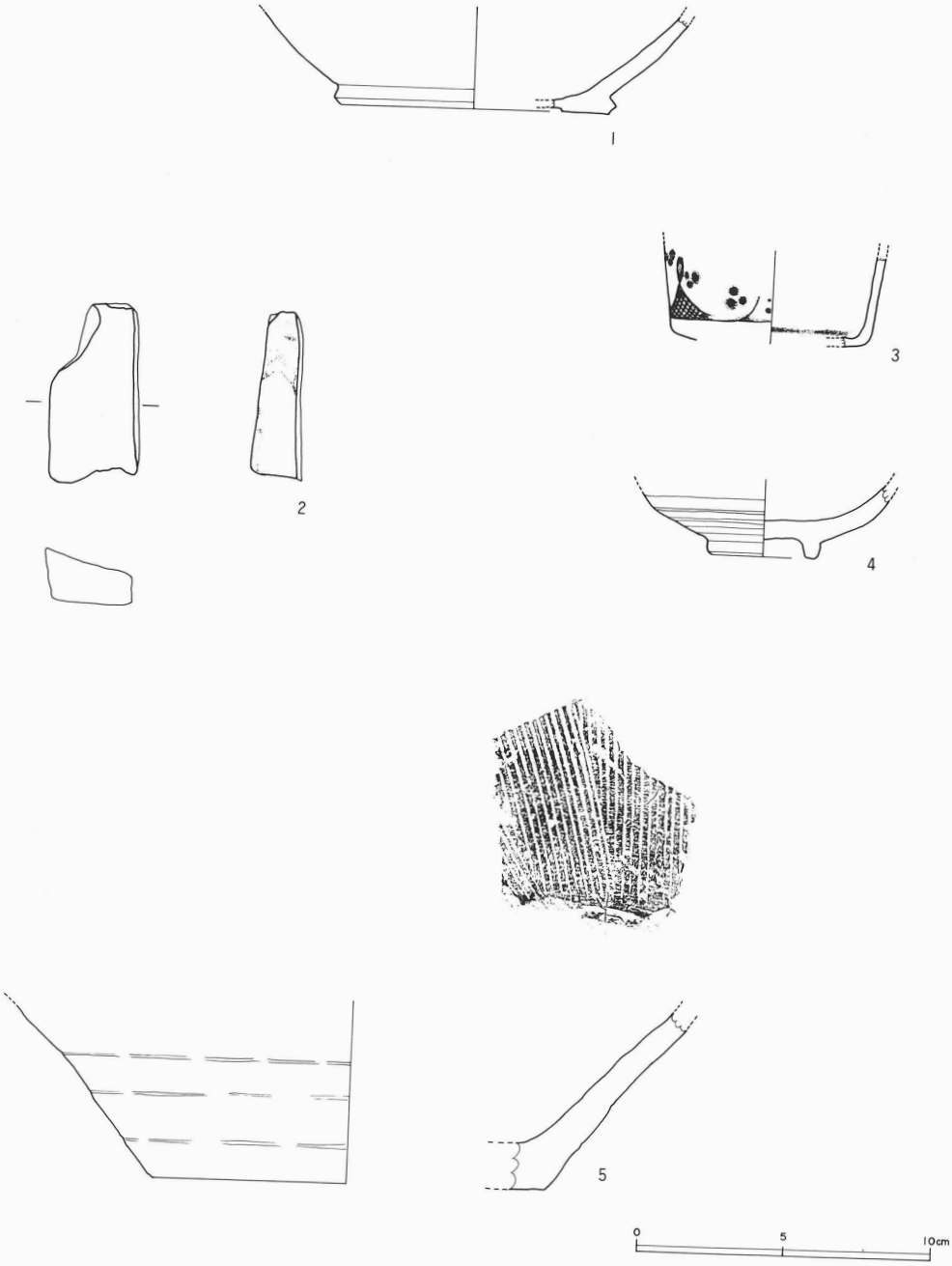
第８図▒で示した遺構は通路状遺構である。位置は北西隅のＡ－１グリットから南東隅のＭ－９グリット方向へ延びている。当遺跡内を対角線状に横切り土層は（ＳＰ－１、ＳＰ－７、ＳＰ－12、ＳＰ－17、ＳＰ－18）に見られるように浅間のＢ軽石降下後の極暗赤褐色土層である。Ｂ軽石下の畦畔上面をわずか削っている。▬で示した水路には17世紀後半から18世紀中頃の陶磁器破片が出土している事から近世の水路と考えられる。以上の事から▒で示した盛り土は近世の畦畔かと思われる。



第８図　Ｂ軽石降下後の遺構平面図

第１表　出土遺物観察表

No.	土器種	位置	量目	釉色・胎土・焼成	特徴	摘要
1	碗 磁器	Ｃ－１－１	推定底径 9.3cm	オリーブ灰 硬質	台部面取り・塗り掛 白色のたれが見られる	時期不明
2	砥石	一括	長（5.7） 短　3.1 厚 1～1.8	灰白色・断面は酸化により赤褐色	四面使用痕有り 密な粘板岩	
3	碗 磁器 半箇	Ｃ－０－１	体部径 7.6cm	灰白色釉 白色 硬質	腰部に圏線が一本・体部外面霧・網目文等を描く・高台部を欠く	18Ｃ頃 肥前系
4	碗・塗り分け	Ｄ－６－１	高台部径 3.7cm	鉄釉・硬質・内面淡黄白釉	腰部から高台部にかけ鉄釉がみられる	18Ｃ中～後半 美濃焼
5	摺鉢	Ｋ－５－９	推定底径 13.5cm	褐色に発色した鉄釉・淡黄白色硬質	僅かな底部から体部下半の破片である。底部は摩耗が著しい。内面は15条の櫛目が充填する。	



第９図　出土遺物実測図

第３節　Ｂ軽石下の水田址

（１）水田の地形（畔の規模、形状及び走向、区画について）

検出された水田址は、北西隅の標高98.51mを最高として南東隅の標高98.285mへ向かって約0.4％の勾配で傾斜している。

水田を区画する畔は発掘区域内で検出されたものは主に小畔と考えられる。

畔は上幅13～39cm下幅33～76cm水田面との高低差は３～７cmで断面が丸い山形を呈する。平均的な畦の下幅は40～57cmであるが、一部Ａ－２～Ｍ－２グリットの畔のように76cm強の広い畔もある。畔は水田耕作土と同質の土を盛り上げて作られている。当遺跡の場合、矢板や杭の痕跡は認められなかった。

南北走行の畔はほぼ直線的であるが東西方向の畔にはやや蛇行するものが見られる。

調査時点での水田の面積は下記の通りである。

ＳＬ	面　積	ＳＬ	面　積
１．	179.726㎡	７．	27.390㎡
２．	89.588㎡	８．	154.800㎡
３．	26.000㎡	９．	216.240㎡
４．	82.285㎡	10.	84.870㎡
５．	117.273㎡	11.	171.810㎡
６．	56.130㎡	12.	60.300㎡

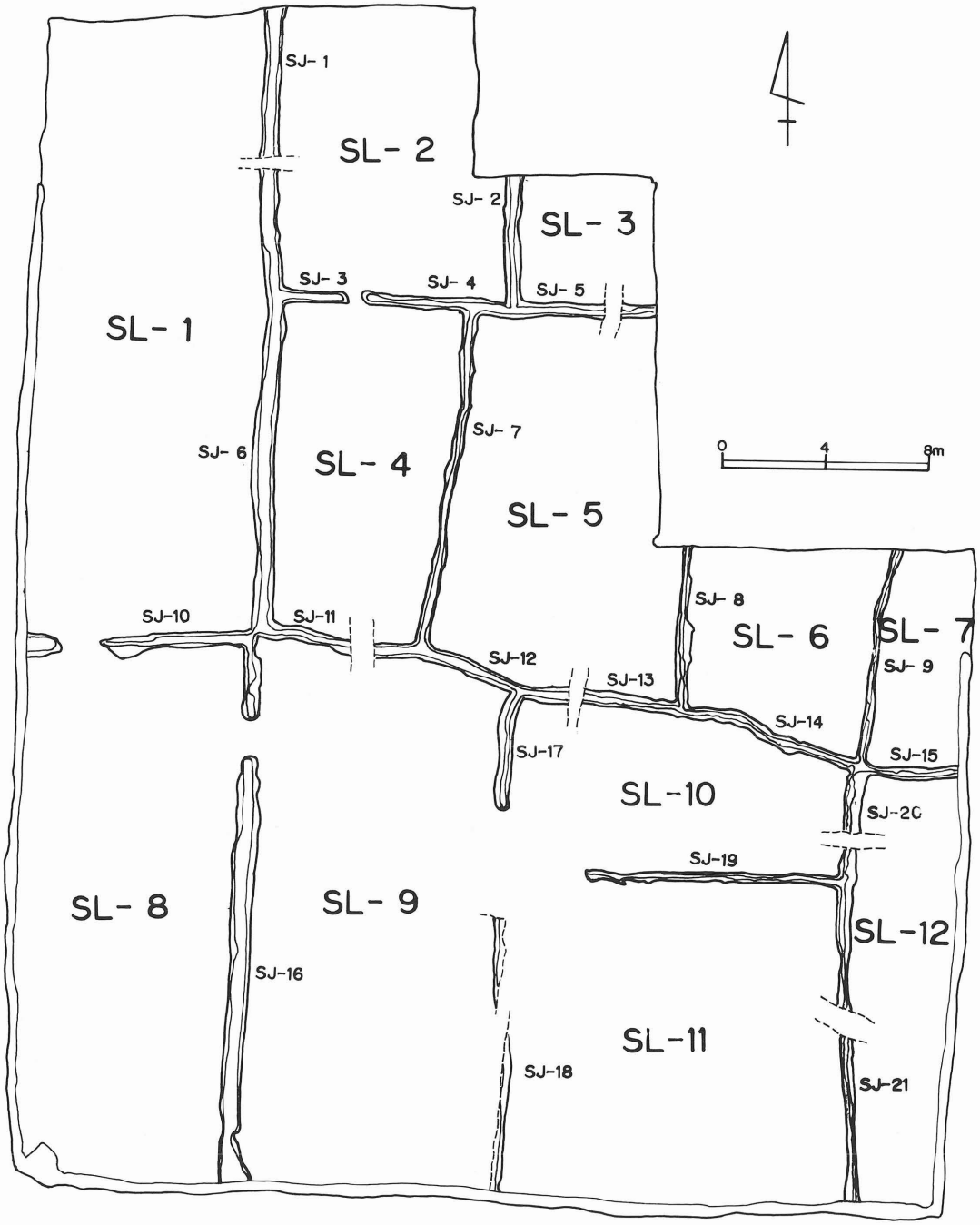
上記12枚の水田が検出された。水田の規模として計測可能なのは、ＳＬ４とＳＬ10他にＳＬ５が面積の測定可能な水田である。それぞれ面積はＳＬ４（82.285㎡）ＳＬ10（84.870㎡）ＳＬ５（117.273㎡）ＳＬ４，５，６は南北方向に長辺を持ち、ＳＬ10は東西方向に長辺を持つ水田区画である。長辺が東西・南北の両方向に取ってあると言う事は、当水田区域が平担であることと水利の方法に起因すると考えられる。各水田面はほぼ平担で、一区画内の比高差は約５cm内外におさまる。また隣接する区画相互の比高差は２～6.5cmであり、若干の段差をもちながら地形勾配と同様に南へ向かって低下している。

畔の交点と埋石　畔の交点付近に直径28cm、厚さ６cmの河原石が一箇所確認された。

（２）畦　　畔

畦畔は表２にあるように21本検出された。畦畔の下幅は33～76cm、上幅は13～39cmとその範囲は広がりを持つが、下幅43～58cmが13本、上幅17～27cmが15本と集中してくる範囲がある。

しかしＳＬ１．６．16は南北に連続する畦畔であり、下幅平均約70cm、上幅平均は40cmを測るように他畦畔と比較した場合、かなり幅広に作られている。この畦畔は、日高遺跡から検出された条里地割の基準と考えられる推定南北古道より、東へ15町延長した基準地割推定線にほぼ一致



第10図　B軽石下の畦畔平面図

すると思われることから、坪畦畔に相当するものの可能性も考えられる。

またＳＪ１．６．16を除いては、方向による畦畔幅の差は特に見られなかった。

畦畔の断面を見ると、頂上部が丸い山形を呈し、２～５cm程の高さを持つものが多く、畦畔を挟んだ両わきの水田比高差は３～７cm程度で、多くの畦畔は両側から緩やかな立ち上がりとなっている。

方向を見てみると、南北畦畔が11本検出中、８本が座標北から東へ１～３°の方向に集中し、東西畦畔は、10本検出中６本が座標北から東へ89～94°の方向に集中していた。

なお、水口はＳＪ３の中央部に検出された。また不明確ながらＳＪ10にも推定できる。

（３）条里遺構について

本遺跡周辺は条里制の名残と思われる区画が、現在も道あるいは水路として利用されているものと考えられる。遺跡の南と北には、東西方向に平行に走る道路がみられ、前橋市立東小学校裏から高崎市日高に延びる「あづま道」が想定されている。

南北方向に伸びる区割りは滝川を挟み、その西の旧東村の中心を貫く道路と東小学校東側の道路、そして主要地方道の前橋長瀞線が見られる。

なお、本遺跡周辺は上記に示した現在使用されている道路区画が２町四方に該当し、条里地割の施行の跡と思われる。約３～５cmのＢ軽石の推積層により一定のある期間、水田として使用が不可能になったものと考えられるにもかかわらず、その区割りが現代にも受け継がれていることはまことに驚きである。

（４）水 田 面

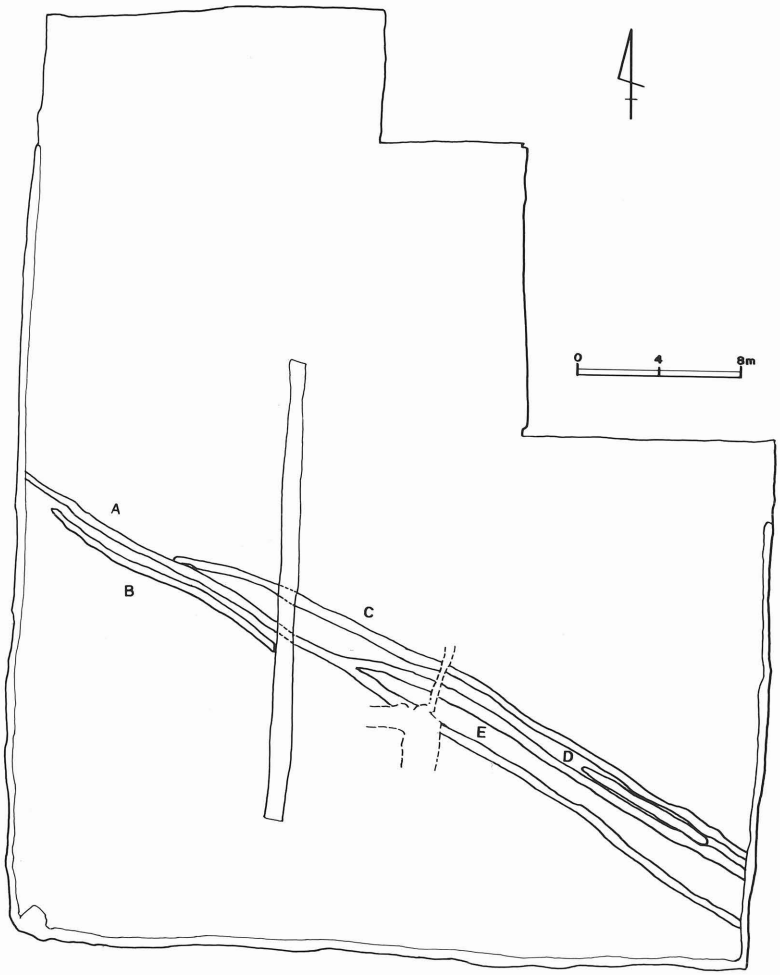
現地表から約40～45cm掘り下げたところより12面が検出された。うち、一区画の確認できる水田は２面である。形状は基本的には長方形水田と考えられ、方向はＳＬ10以外は南北畦畔を長軸としている。水田面の最高所の標高は98.51m、最低所では98.285mを測る。北西部では南東部への距離50mに対し、比高差は21.5cmであるから、勾配率は約0.4％とかなり緩やかである。

しかし、北西から南東への全体的な傾斜に対し、最高標高を示すＳＬ２とその南につづくＳＬ４はその東西の水田面よりも僅かに高くなっている。よって、ＳＪ３に水口が設けられたのは給水の得にくいＳＬ４に引水の利便をはかったものと考えられる。

またＳＪ11～16を境として、その南北の水田形態に微妙な変化がみられる。つまり北側はＳＬ４・５で見られるように長軸である南北畦畔が南と比較して相対的に短い。これは等高線の間隔がＳＪ10～15との南北で変化を示す状況と一致することから、水田区画の設定にはその地形状況に応じた配置が想定される。また水田一枚内の比高差は、ＳＬ４・５・10より考えると最高で６～８cm程である。しかしＳＬ１のみは13cmもあり、さらに北へ延びている。第10図に示すように、畦畔をオーバーフローさせる灌漑方法であるとしてもＳＬ４・５・10と比較した場合のＳＪ10の

平均標高ではＳＬ１北部までの完全冠水は不可能である。またＳＬ１北部を東西に横切る後世溝付近に、僅かな東西均一段差が見受けられることから、この溝に沿い東西畦畔が存在した可能性が強いと思われる。足跡は、一般的に南北畦畔に沿い多数検出されたが、ＳＬ１南部、ＳＬ２のように集中する水田址もある。特にＳＬ１は足跡が挟い範囲内に且つ旋回状に遺されていた。

註　第４表に掲載した水田址の調査例において、水口の確認出来なかった水田址のほとんどがオーバーフローを給水法としているが畦畔の重要性から考えるならば、古代において畦の破壊を伴う方法がなぜ取られるのか疑問が残る。



第11図　遮断水路平面図

（5）遮断水路状遺構

西北西から東南東に向かって平行に5条検出された。Aが本筋と思われ、Eが中央付近で枝状に分かれている。Cもはっきりとは確認できなかったが、両脇の足跡の状況から、やはりAから枝状に分かれたものと考えられる。DはCの南約50cmのところを並走し、途中で消滅していた。幅は上幅36～46cm、下幅は17～22cmとほぼ平均しているが、Dが他の溝に比べ若干狭い。深さは約2cmを平均とし、規模の上からはその本支の関係を見極める事は出来ないが、Aを本筋と考えるのが妥当と思われる。

この水路状遺構は水田、畦畔の方向に規定される事なく、遺跡面の傾斜方向に沿い約N—122°—Eの方向に畦畔を断ち切り、ほぼ一直線に並走している。半永続性を持つ畦畔を断つということは、保水上の性格を有する畦畔域を必要とせず、しかも緊急的な用途としての意味を持つと考えられる。

また本筋と思われるA内には、足跡、段差はまったくなく、Aの南側に近接し、北西方向に伸びる足跡群の中には、10cmを越える深いものが連続することから、この溝は僅かな水深ではあるが、水の流路であったものと考えられる。さらにこの溝は約2cmという深さから、その給水源を遺跡の西側近くに想定できよう。人（第12図-7・図版2-8）と家畜（第12図12-3・図版2-7）と思われる足跡がこの水路に沿って確認された。

第Ⅳ章　ま　と　め

発掘調査の結果、次のことが確認できた。

① 水田址に関係する遺構として、畦畔が21本検出された。いずれも1108年（天仁元年）の浅間山の噴火に伴う、B軽石層によって埋没したものである。B軽石層の厚さは、約5cmで条里期の水田と考えられる。

② 畦畔の大きさは、下幅で約76cmと50cmのものが確認された。水田面からの高さ約5cmである。

③ 畦畔は東西方向のもの10本、南北方向のもの11本に大別出来る。しかし、調査面積の限定もあって、一区画当りの水田面積の算定は2ケ所しか出来なかった。

④ 調査地を斜めに切るような形で、遺構が一条検出された。B軽石降下後の構築であり、畦畔の上端をわずか切り取っている事、図示した溝によって切られていることから、中世の通路状遺構と考えられる。

本発掘調査の成果は、古代の水田址の検出である。当地の北東方向には「市之坪」の字名が残っている。同地は上野国府推定地の東南に当たり、条里制施行の際に付与された序数の「一ノ坪」が変化したものと考えられている[(1)]。本遺跡地の水田遺構が条里制施行時のものとは一概に断定出来ないが、B軽石下に埋没していた事等を考え合わせると、条里水田がその施行時より連綿と続いて、本遺構に至った可能性が強い。群馬県下では第3表に示したように、ここ5年間で水田址の調査例は100件に及んでいる[(2)]。本調査は宅地開発予定地部分というきわめて限られた範囲内のも

のであり、畦畔状遺構の方向性、水口の有無、面積の算定等、課題は残る。水田址の調査は、近年大規模開発（上越新幹線、関越自動車道、圃場整備事業）と、その他の開発行為によって、調査例は急激に増加している。

本遺跡を被覆する浅間山Ｂ軽石は、現時点では「中右記」記載の天仁元年（1108）の降下説が有力視されているが、それによると浅間山の本格的活動開始を７月21日としている。「中右記」内の本条記載日は９月５日であり、「上野国司」からの解状送付期間の約14日や国司側の被害状況視察や解状の執筆時間、そして、左中弁長忠の解状内容報告時間の遅れ、等を考慮すると解状の内容は８月中旬頃の状況報告と考えられる。これを現行のグレゴリオ暦に換算すると９月５日から９月の下旬いっぱい頃までと言うことになる。[(3)]

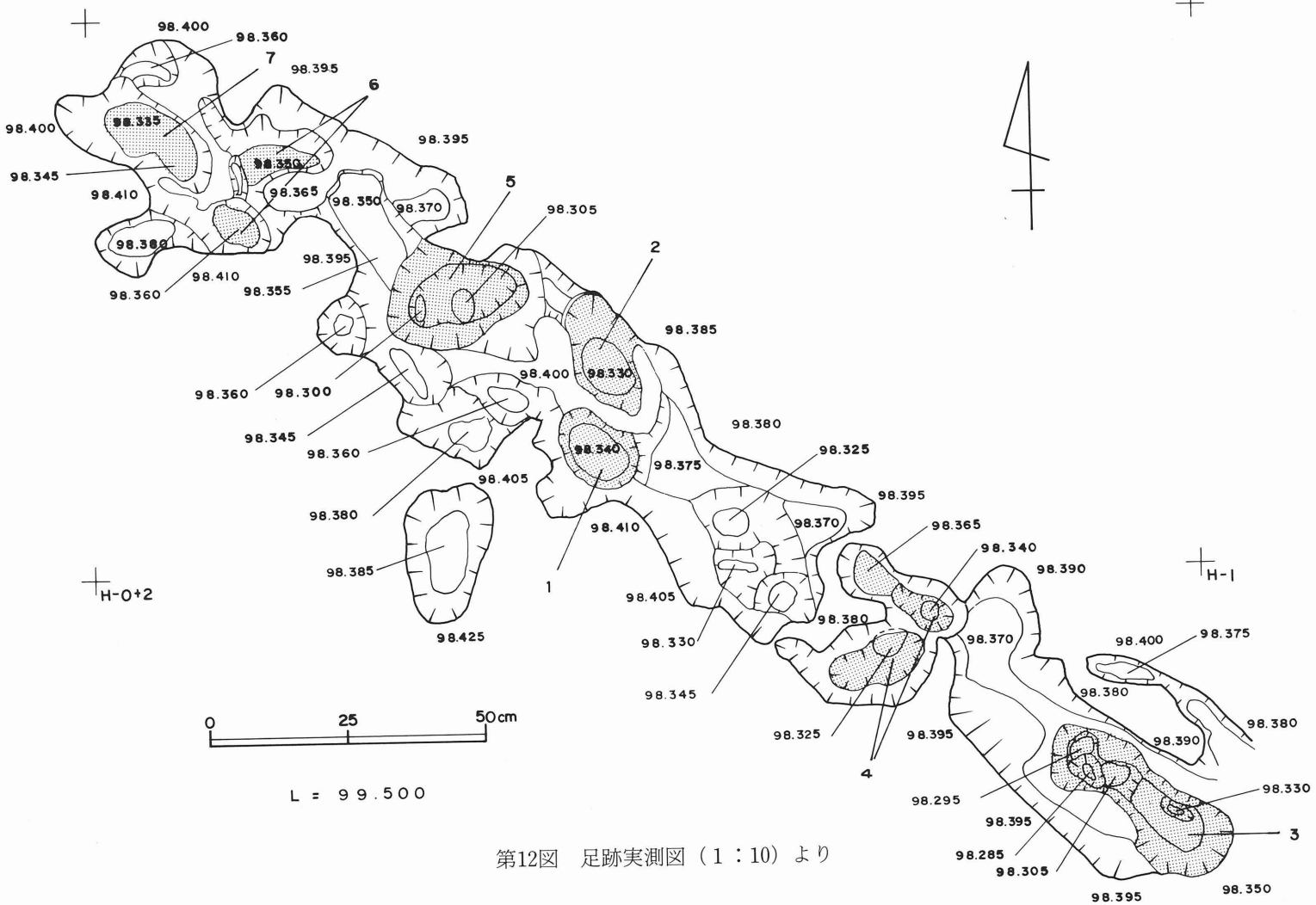
これは群馬県下、その他の現行の一般的稲作過程と比較してみても稲の刈り取り時期には早すぎ、もしＢ軽石降下時、稲田として使用されていたとしても稲は成育途中なのか、また稲株の痕跡が見られない事から育成途中と考えるのも難しい。

本遺跡では、幅、深さなど同規模の溝状遺構５条が畦畔、水田面を斜状に断ち切り一定の幅を持って並走している点、水田内の保水状の問題からもＢ軽石降下時水田１．８．９．10．11．12には水稲栽培はなされていなかったと考えるのが妥当かと思われる。

これは、戸田芳実[(4)]が11Ｃの大和栄山寺領の分析から当時は灌漑用水不足や地力回復を目的に一時的に耕作放棄、あるいは休耕を余儀なくされた「かたあらし」と呼ばれる不安定耕地が広い範囲にわたって存在していたことを論証したように、本遺跡もこのような農耕方法を考慮にいれて捉えるべきではなかろうか。

註

1．前橋市史　1971年　第１巻　前橋市
2．年報１～５　1982～1986年　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
3．群馬県下における埋没水田畠調査の現状と課題　能登　健
　清里・陣場遺跡　1981年　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
　遺構の年代と火山噴出物の降下年代　考古学ジャーナル　№157　1979年
4．日本領主制成立史の研究　戸田芳実　岩波書店



第12図　足跡実測図（1：10）より

第2表　畦畔計測表

畦畔No.	長さ(m)	幅 (cm)		高さ (cm)		方向	備考
		下	上				
1	11.50	69	39	W 5	E 3	N－ 1°－E	現状
2	5.18	58	27	W 2	E3.5	N－ 1°－E	現状
3	7.82	44	19	N2.5	S 4	N－ 94°－E	中央部に水口
4	1.58	54	23	N2.5	S 4	N－ 94°－E	
5	5.55	53	24	N 2	S4.5	N－ 91°－E	現状
6	13.34	76	40	W 5	E 4	N－ 3°－E	
7	13.77	45	20	W3.5	E 4	N－ 10°－E	
8	6.38	39	15	W 4	E 5	N－ 3°－E	現状
9	8.62	30	13	W4.5	E 6	N－ 10°－E	現状
10	8.88	54	24	N 2	S 3	N－ 89°－E	現状　東端に水口か。
11	6.33	51	24	N 2	S 4	N－ 98°－E	
12	4.31	50	20	N 2	S 4	N－113°－E	
13	6.38	50	19	N2.5	S6.5	N－ 98°－E	西部南側に水路
14	7.39	43	18	N4.5	S5.5	N－109°－E	南側に水路
15	3.91	44	19	N 5	S 6	N－ 93°－E	現状
16	21.61	66	26	W 4	E 4	N－ 3°－E	現状
17	7.31	51	19	W4.5	E 6	N－ 3°－E	東側に水路
18	12.69	－	－	－	－	N－ 3°－E	現状　近世溝により遮断
19	13.27	33	15	N6.5	S4.5	N－ 92°－E	
20	4.70	38	17	W 4	E 5	N－ 5°－E	東側に水路と埋石
21	13.17	45	19	W 2	E 5	N－ 1°－W	現状

第３表　水田面遮断水路計測表

水路記号	長さ(m)	幅 (cm)		深さ (cm)		方向	比高差 (cm)	備考
		上	下	南西	北東			
A	17.46	42	18	3.0	2.5	N－122°－E	4	分岐点不明、足跡あり。
B	22.87	46	22	2.0	1.5	N－122°－E	5	Cより分岐、足跡あり。
C	42.38	40	22	1.5	1.5	N－122°－E	12	
D	17.58	36	17	2.5	1.5	N－121°－E	4	途中で消滅。

第４表　最近５年間の水田跡発掘調査例

群馬県埋蔵文化財調査事業団年報による

No.	道跡名	所在地	期間	内容・文献
1	女堀遺跡	前橋市今井町、荒口町	50. 6. 1～57. 3. 25	女堀とB軽石降下以後の畠跡
2	前田遺跡	前橋市荒口町	57. 1. 6～57. 2. 25	B軽石埋没水田跡
3	大日塚遺跡	前橋市二之宮町	57. 11. 5～58. 1. 31	B軽石埋没水田跡
4	矢中遺跡	高崎市矢中町（村東）	56. 11. 1～57. 2. 24 58. 11. 12～58. 12. 27	平安時代の水田
5	日高II遺跡	高崎市新保田中町	56. 4. 10～57. 2. 28	弥生の水田
6	菊地遺跡	高崎市菊地町六反田	56. 6. 10～56. 8. 31	平安時代の水田
7	長野北遺跡	高崎市北新波町	56. 11. 11～57. 2. 27	条埋水田、大畦を作った石
8	下之城村東遺跡ＩII次	高崎市下之城町	56. 12. 20～57. 1. 31	平安時代水田畦畔（畦畔に相当）
9	下佐野Ｉ遺跡	高崎市下佐野町	57. 3. 1～57. 3. 25	畠跡
10	有馬条埋遺跡	渋川市八木原堰上85 堰下118浅田１	56. 6. 1～56. 7. 15 57. 1. 12～57. 3. 25	平安時代水田跡 ＦＰ直下の水田
11	神明北遺跡 小野地区水田跡遺跡	藤岡市中栗須	56. 12. 16～57. 8. 31	平安時代の水田跡 〃
12	中林遺跡	群馬郡群馬町	57. 1. 5～57. 3. 31 57. 8. 1～58. 3. 31	B軽石の水田跡（一部はＦＰＦの水田跡と考えられる）
13	東下井出遺跡	群馬郡群馬町	56. 4. 1～56. 8. 31	C軽石埋没の畠
14	三ツ寺II遺跡	群馬郡群馬町	56. 8. 20～56. 8. 24	平安時代の水田
15	井出村東遺跡	群馬郡群馬町	55. 9. 1～56. 8. 31	B軽石下水田跡
16	三室遺跡	佐波郡東村	56. 4. 3～57. 3. 31	古墳時代の谷地田

No.	道　跡　名	所　在　地	期　　間	内　容・文　献
17	二本松遺跡	前橋市飯土井町	57. 5. 4～57. 9. 4	女堀・平安時代の畠跡
18	前箱田遺跡	前橋市前箱田	57. 7. 5～57. 8. 14	平安時代の水田跡
19	荒砥上ノ坊遺跡	前橋市二ノ宮町	57. 7. 1～58. 3. 25	奈良・平安時代の畠跡
20	荒砥中屋敷II遺跡 下押切II遺跡	前橋市荒子町	57. 12. 13～58. 2. 18	古墳時代水田跡
21	宿大類遺跡群	高崎市宿大類町 天神久保		平安時代の水田跡　条里制水田
22	矢中II遺跡	高崎市矢中町村北甲		平安時代の水田跡　条里制水田
23	舞台遺跡	高崎市楽間町		平安時代の水田跡　条里制水田
24	矢中遺跡群	高崎市矢中町天王前		条里制水田跡、大型水路、坪畦畔、坪内区割畦畔多数等
25	菊地遺跡群III	高崎市我峯町当見戸	57. 6. 21～57. 9. 14	平安時代の水田・畠跡
26	長野北部遺跡群	高崎市楽間町殿田	57. 6. 21～57. 9. 14	平安時代水田跡
27	日高遺跡群 日高クリニック用地内遺跡群	高崎市中尾町		古墳時代の水田跡 平安時代の水田跡
28	融通寺遺跡	高崎市大八木町融通寺	58. 1. 5～58. 3. 31 58. 4. 1～58. 8. 31	古墳時代の水田跡
29	中村遺跡	渋川市中村	57. 4. 12～58. 3. 31 58. 4. 11～59. 3. 31	天明3年浅間泥流埋没下の水田跡・畠跡
30	有馬条里遺跡	八木原121-1　122-1,2	56. 6. 1～56. 7. 15	ＦＰ降下以前の水田跡
31	〃	八木原、堰上、堰下	57. 4. 21～58. 3. 25 58. 4. 7～59. 3. 31	古墳時代後期の水田跡
32	有馬遺跡	渋川市八木原有馬	57. 4. 15～57. 11. 30 58. 3. 1～58. 3. 25	平安時代の水田跡・畑跡
33	緑埜地区遺跡群	藤岡市緑埜	57. 5. 24～58. 1. 20 58. 6. 1～58. 10. 31	平安時代水田跡
34	中道遺跡	藤岡市岡之郷中道251	56. 12. 16～57. 3. 1	平安時代の水田跡
35	中東田遺跡	藤岡市大字中字東田 1087		浅間Ｂ軽石下の水田跡
36	下芝・原遺跡	群馬郡箕郷町下芝	57. 6. 20～57. 8. 31	平安時代（浅間Ｂ軽石層下）水田跡
37	生原・飯盛遺跡	群馬郡箕郷町飯盛		平安時代水田跡
38	北原遺跡	群馬郡群馬町北原	57. 4. 1～58. 3.	古墳時代の水田跡

No.	道　跡　名	所　在　地	期　　間	内　容・文　献
39	保渡田III遺跡	群馬郡群馬町保渡田	57. 7. 1～57.10.30	平安時代の水田跡
40	熊野堂遺跡第Ⅰ地区東下井出遺跡	群馬郡群馬町東下井出福島熊野堂	57. 9. 8～57.10.31	古墳時代の畠跡
41	宮後遺跡	前橋市二之宮宮後	58. 4. 5～58. 4.13	平安時代の畝状遺構
42	後閑II遺跡	前橋市後閑町	58. 8.12～58. 9.14	平安時代の水田跡
43	中大門遺跡	前橋市六供町	58. 9.28～58.11. 5	平安時代畝状遺構
44	青柳寄居遺跡	前橋市青柳町	58.10.25～58.12.29	平安時代水田跡
45	荒砥諏訪西遺跡	前橋市荒口町	58.10. 1～59. 3.24	平安時代水田跡
46	宿大類遺跡群 沼尻天田地区	高崎市宿大類町		B軽石下水田跡
47	宿大類遺跡群 山ノ鳥地区	高崎市宿大類町		B軽石下水田跡
48	矢中遺跡群	高崎市矢中町		B軽石下水田跡
49	長野北遺跡群	高崎市行力町		B軽石下水田跡
50	菊地遺跡群	高崎市菊池町	58. 7.14～58. 9.20	B軽石下水田跡
51	宝昌寺遺跡群	高崎市矢中町	58.10.10～58.11.10	平安時代の水田跡
52	西島遺跡群	高崎市新保町	58.11. 1～59. 1.20	B軽石下水田跡
53	柴崎遺跡群	高崎市柴崎町	58.11.14～58.12.27	B軽石下水田跡
54	中筋遺跡群	渋川市中筋	59. 1.10～59. 1.30	古墳時代畑等
55	滝前・滝下遺跡群	藤岡市中大塚滝前・滝下		平安時代水田跡
56	加桝皆戸遺跡群	藤岡市岡之郷加桝皆戸		平安時代水田跡
57	一日市関後遺跡群	勢多郡粕川村大字一日市字関後	58. 4.18～58. 5.31	C軽石下水田跡
58	峰岸II遺跡	勢多郡新里村武井峰岸	58. 4. 1～59. 3.31	平安時代水田跡
59	中泉遺跡	群馬郡群馬町中泉		平安時代水田跡
60	甘楽条里遺跡	甘楽郡甘楽町大字造石字上町字神田	58. 5. 9～58. 8.31	平安時代浅間B下水田跡 江戸時代浅間A下畑跡
61	寺東遺跡	佐波郡東村大字西小保方	58.12.10～59. 1.31	平安時代水路、水田状遺構4枚

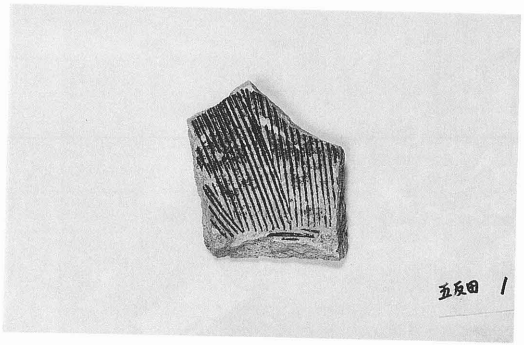
No.	道　跡　名	所　在　地	期　　間	内　容・文　献
62	箱田境遺跡	前橋市箱田町字箱田境	59.11.27～59.12.27	浅間Ｂ軽石埋没水田跡
63	桜ケ丘遺跡	前橋市総社町桜ケ丘	59.6.3～59.7.12	奈良平安時代畝状遺構
64	上武国道試掘調査II	飯土井町二之宮町	60.1.28～60.2.28	平安時代の水田跡
65	万相寺遺跡	前橋市大類町万相寺		平安時代の水田跡
66	新保田中村前遺跡	前橋市新保田中字村東地区	59.10.1～59.12.28	古墳時代の水田跡 平安時代の水田跡
67	上武国道試掘調査Ｉ	伊勢崎市波志江町	59.4.1～59.6.30	古墳～平安時代水田跡
68	中村遺跡	渋川市中村	57.4.11～59.4.30	ＦＡ・ＦＰ水田
69	屋知川遺跡	勢多郡新里村大字大久保		平安時代の水田状遺構
70	黒井峯遺跡	北群馬郡子持村大字中郷		畠を発掘
71	押手遺跡	北群馬郡子持村大字北牧		ＦＰ・古墳時代畠跡
72	道六神遺跡	多野郡吉井町大字本郷		浅間Ｂ軽石下の水田跡
73	甘楽条里遺跡	甘楽郡甘楽町大字福島	58.11　～59.10	浅間Ｂ軽石下の水田跡 江戸時代水田・畠跡
74	五目牛清水田中田遺跡	佐波郡赤堀村大字五目牛	59.8.1～60.3.31	古墳時代畠（４面）
75	上武国道地域試掘Ｉ	佐波郡赤堀村大字五目牛	59.4.1～59.6.30	古墳～平安時代水田跡
76	寺東遺跡	佐波郡東村西小保方		平安期と思われる水田跡他
77	尾島工業団地遺跡 （歌舞伎・小角田前）	新田郡尾島町 世良田・小角田 佐波郡境町・三ツ木		浅間Ａ水田 浅間Ｂ畑
78	柳久保遺跡群		59.7.16～59.12.27 59.10.1～60.2.6	奈良平安時代　柳久保水田跡遺構
79	谷地明神北遺跡	藤岡市	52.12　～57.9	平安時代の水田跡
80	福島遺跡	群馬町	59.5.20～59.7.1	平安時代の水田跡
81	甘楽条里遺跡	甘楽郡甘楽町	58.11　～59.3 59.7　～59.10	浅間Ａ軽石下水田跡　畠跡 浅間Ｂ軽石下水田跡
82	五反田遺跡	前橋市箱田町1009-1	61.11.13～61.3.31	平安時代の水田跡

No.	道　跡　名	所　在　地	期　　間	内　容・文　献
83	村前遺跡	前橋市箱田町字村前1471-10	61. 1. 8～61. 5. 31	平安時代の水田跡
84	柳久保水田跡	前橋市荒子町、荒口町	60. 5. 1～61. 2. 12	平安時代の水田跡
85	矢中遺跡	高崎市矢中町字村北柴崎町字砂内	60. 6　～60. 9	条里水田跡
86	長野北遺跡群	高崎市行力町191 北新波町1186	60. 7　～60. 9	平安時代の水田跡
87	柴崎遺跡群	高崎市柴崎町字新掘768	60. 7　～60. 9	条里水田跡
88	西島遺跡	高崎市島野町西島町1302	60. 6　～60. 9	条里水田跡
89	菊池遺跡	高崎市柴間町字石神13	60. 6　～60. 9	平安時代の水田跡
90	京目遺跡	高崎市京目町作道1678	61. 3	条里水田跡
91	新保田中村前遺跡	高崎市新保田中字村前	60. 9　～61. 3. 31	中近世畠跡
92	波志江中峰岸	伊勢崎市波志江	60. 9. 2～60. 12. 24	水田跡
93	波志江今宮	伊勢崎市波志江今宮・神田	60. 6. 1～60. 9. 30	水田　畠
94	縁埜地区遺跡群	藤岡市縁埜	60. 7. 10	平安時代水田跡
95	原遺跡 （新里地区遺跡群）	勢多郡新里村大字大久保字原	60. 10. 3～60. 12. 13	平安時代水田状遺構
96	西組遺跡	北群馬郡子持村中郷字天神島	61. 1. 15～61. 3. 31	古墳時代の畠・水田
97	黒井峯遺跡	北群馬郡子持村北牧字黒井峯	60. 12. 2～61. 3. 31	古墳時代の畠
98	甘楽北部遺跡群	甘楽町大字小川字多井戸	60. 5. 13～60. 9. 31	平安時代水田跡（条里制跡）
99	大王寺遺跡	碓氷郡松井田町大字人見大王寺	60. 3. 18～61. 2. 24	平安時代の水田跡
100	五目牛清水田・中田	佐波郡赤堀村大字五目牛字中通	60. 4. 1～61. 2. 18	平安時代の水田跡

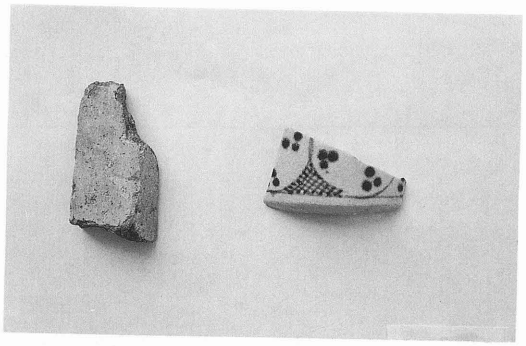
図版 1

五反田遺跡全景空中撮影

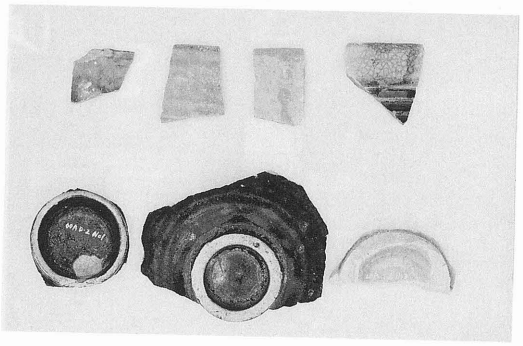
図版２



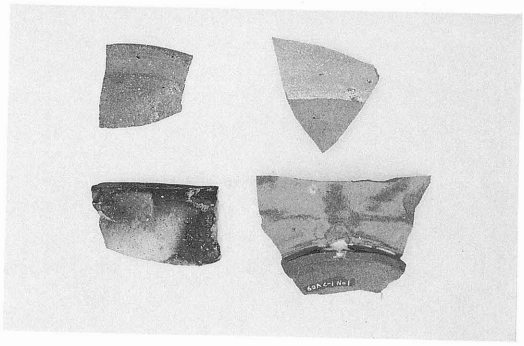
1



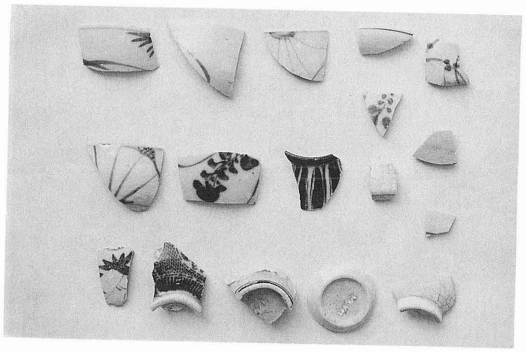
2



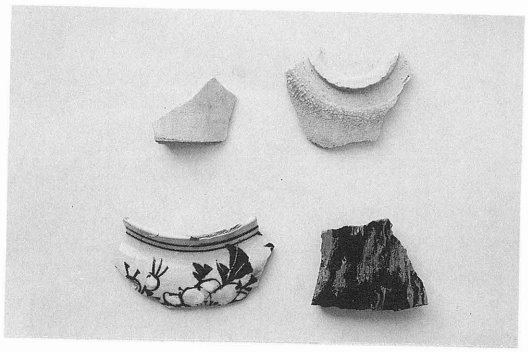
3



4

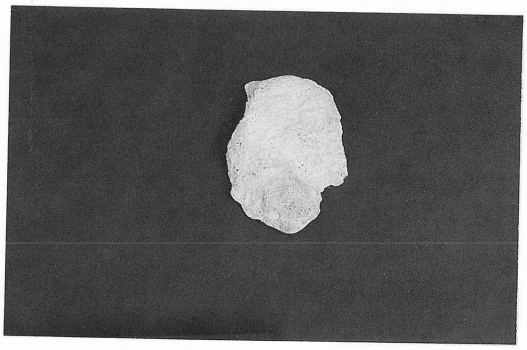


5



6

7

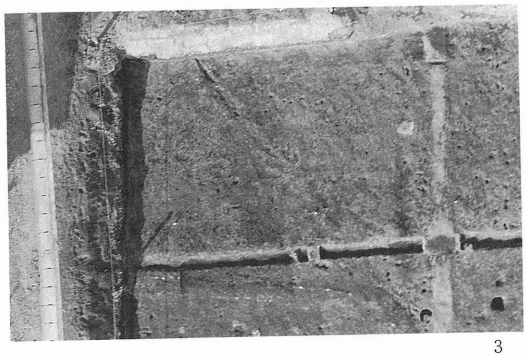


8

出土遺物・足跡の石骨写真

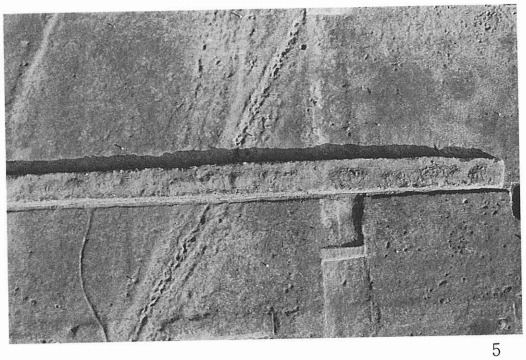
1

2



3

4



5

6

7

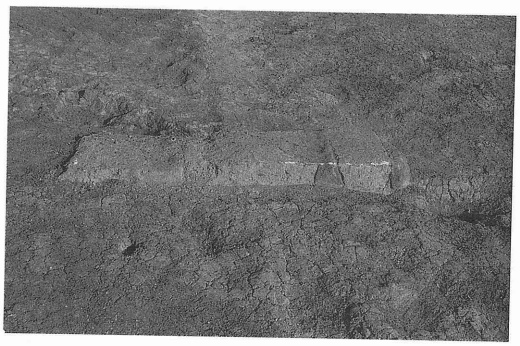
8

遺構部分撮影

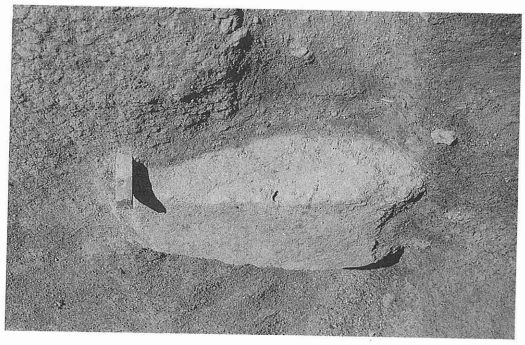
図版４

1

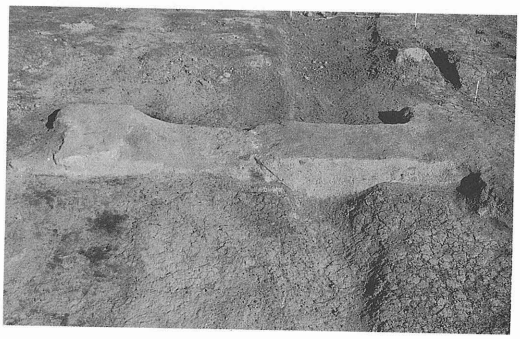
2



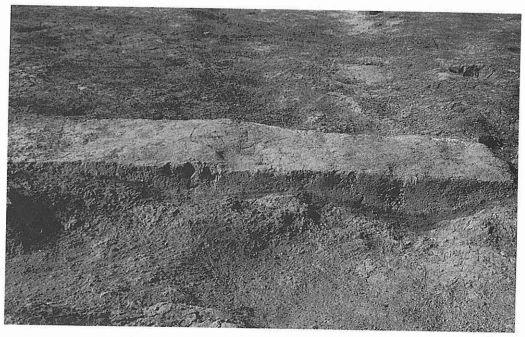
3



4

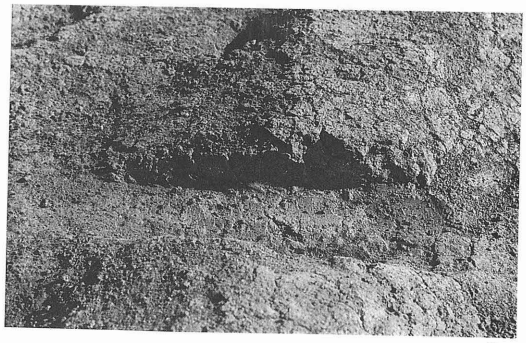


5



6

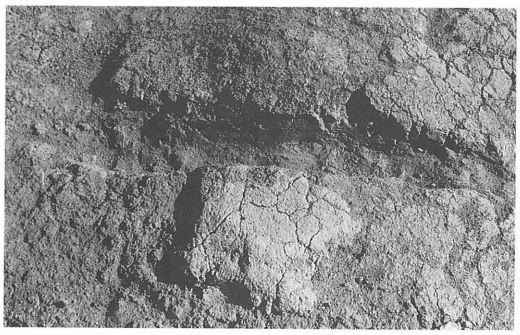
7



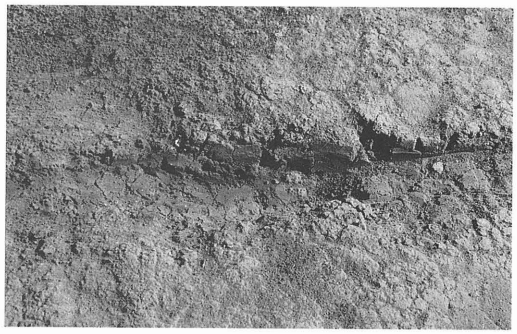
8

足跡及びセクション

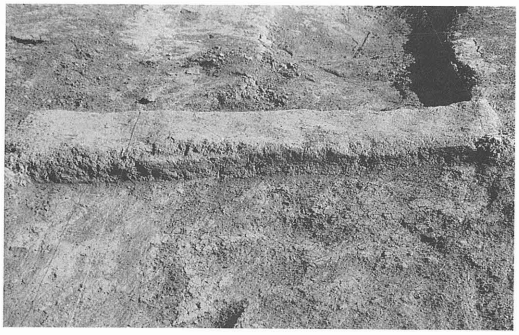
図版５



1



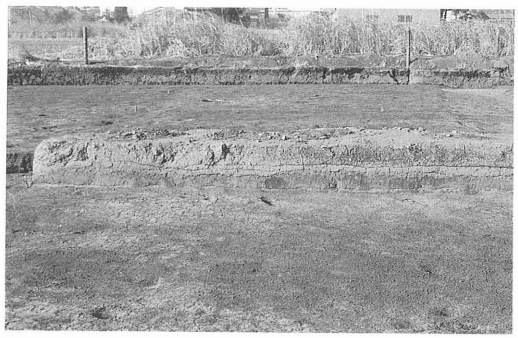
2



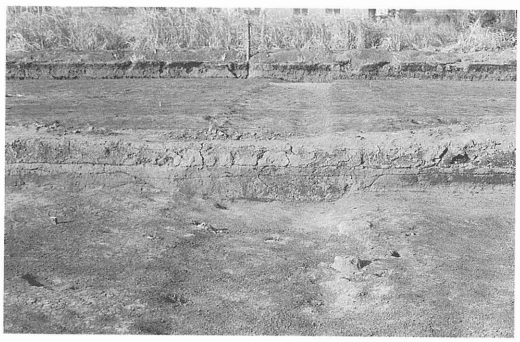
3

4

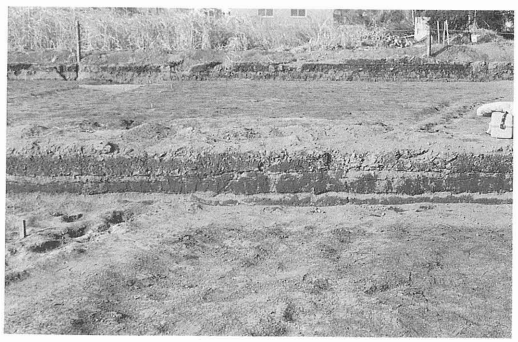
5



6



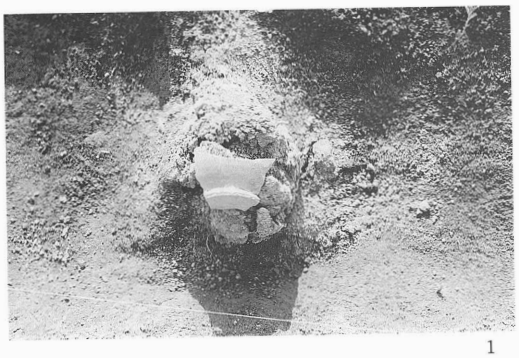
7



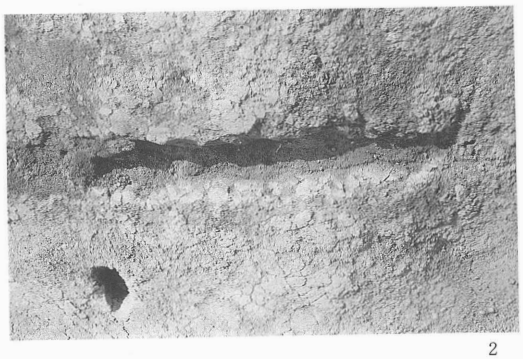
8

セクション

図版6

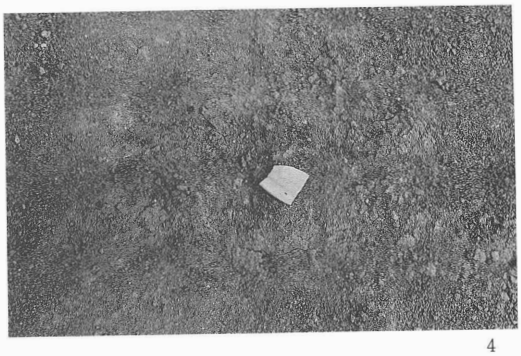


1

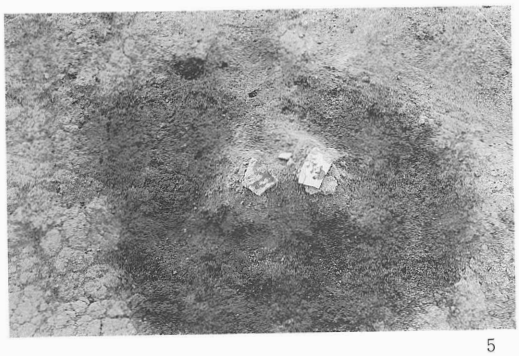


2

3



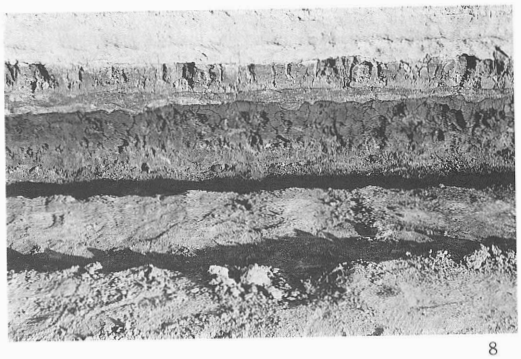
4



5

6

7



8

セクション遺物出土状況

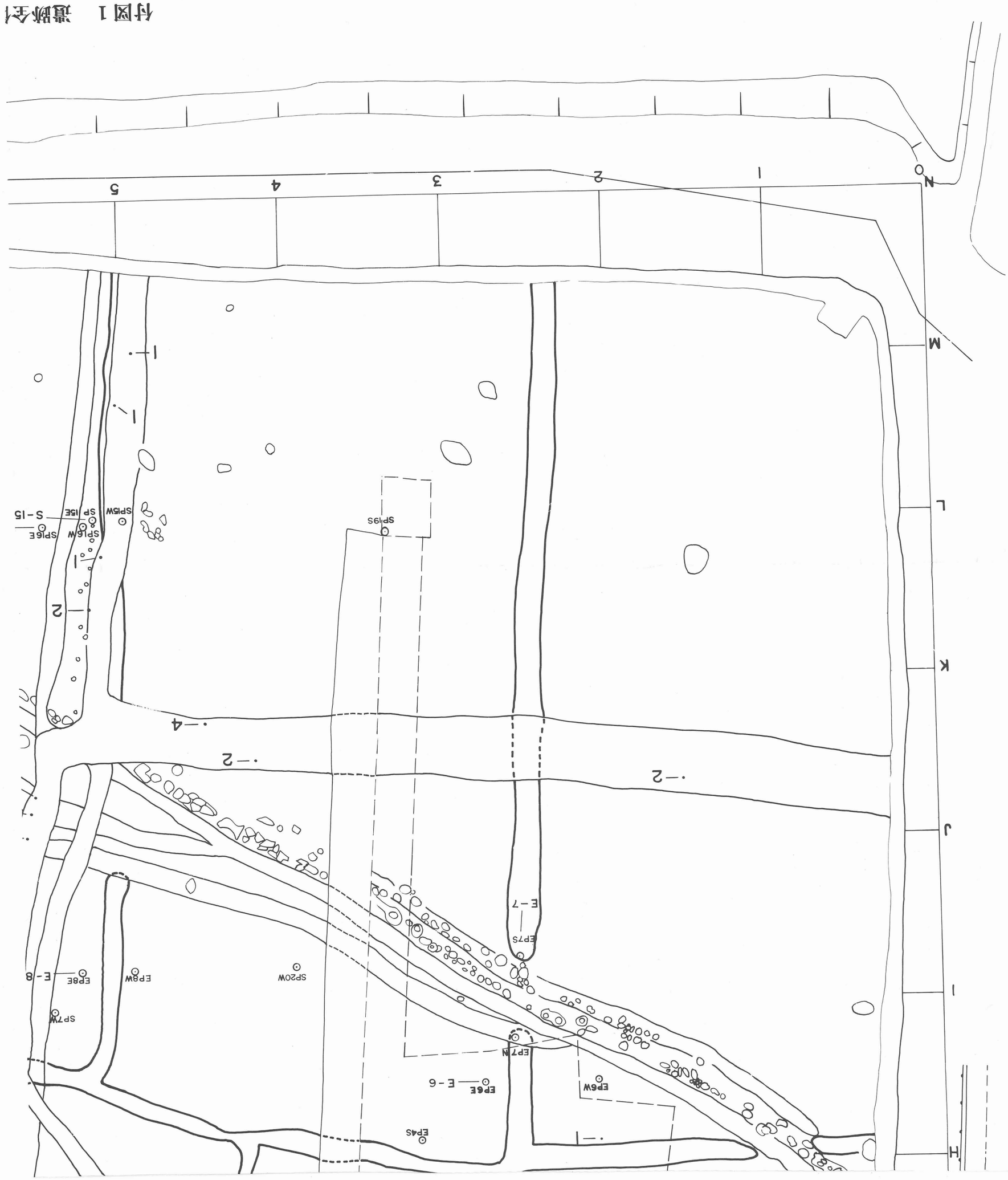
五反田遺跡

昭和62年8月20日　印刷
昭和62年8月25日　発行

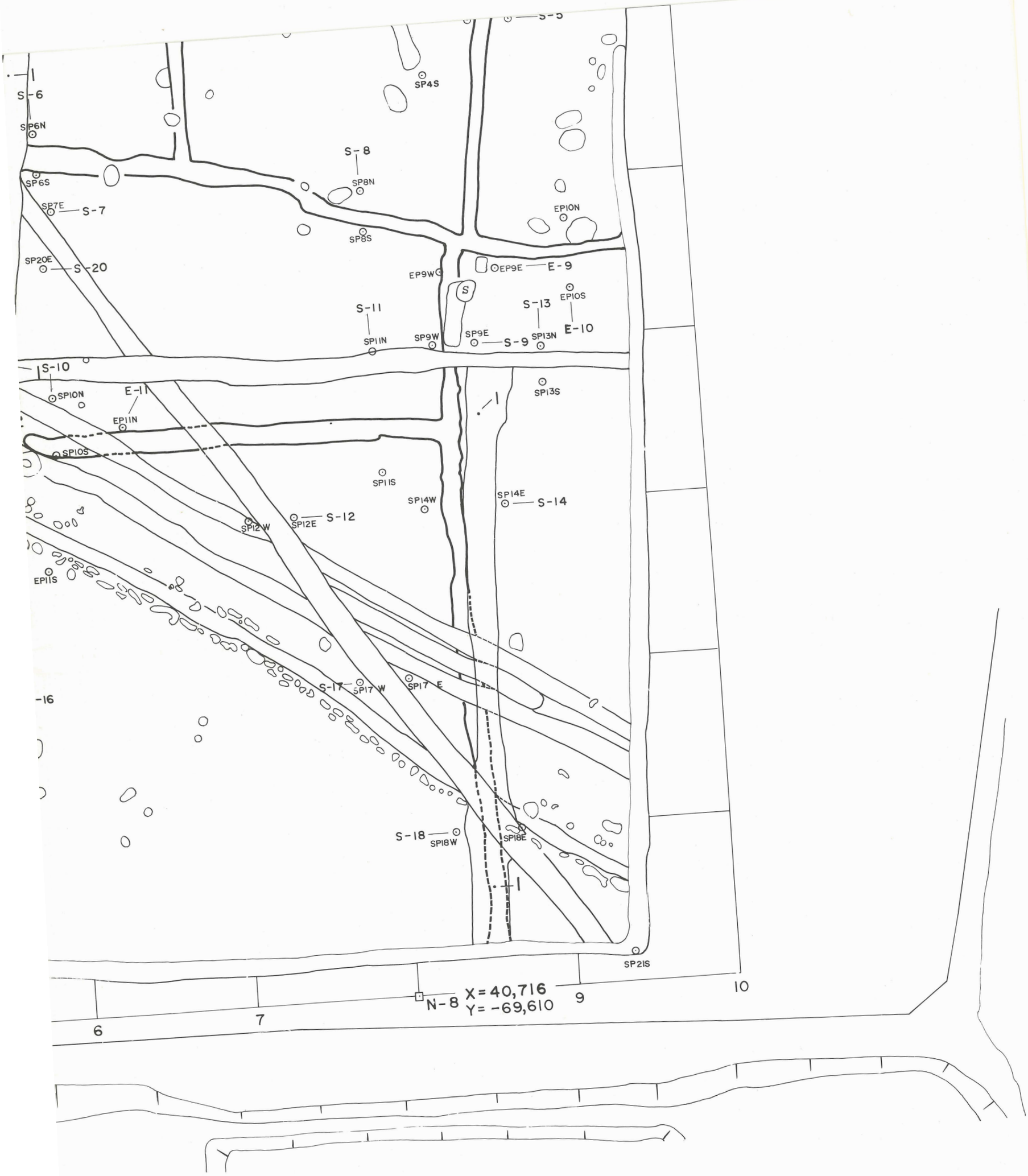
編集　スナガ環境測設株式会社

発行　前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

印刷　朝日印刷工業株式会社

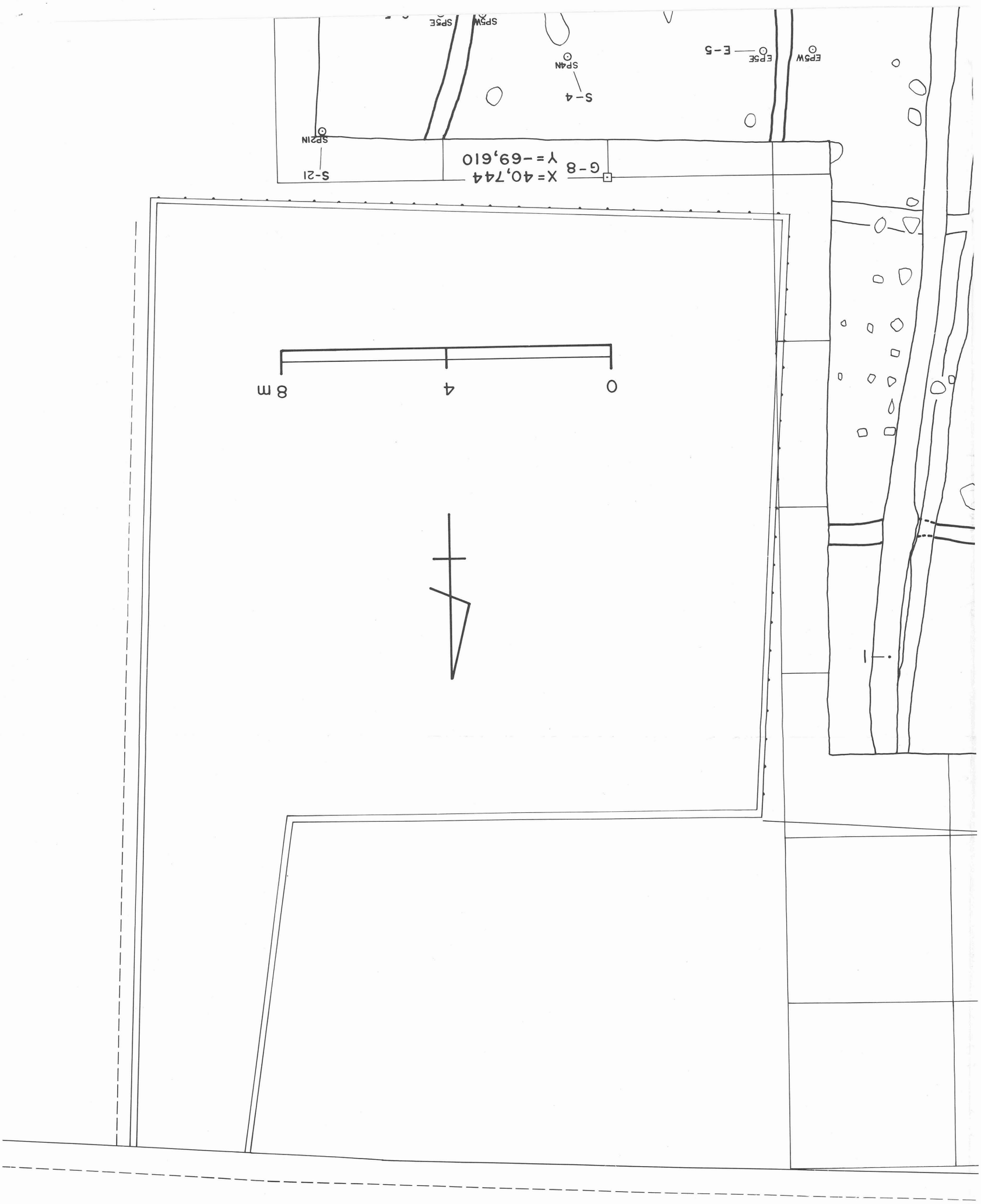

H
I
J
K
L
M
N
1
2
3
4
5
EP4S
EP6E
E-6
EP6W
EP7N
SP7W
EP8E
E-8
EP8W
SP20W
EP7S
E-7
SP19S
SP16E
SP16W
SP15W
SP15E
S-15

付図1　遺跡全体


S-6
SP6N
SP6S
SP7E
S-7
SP20E
S-20
SP4S
S-8
SP8N
SP8S
EP10N
EP9W
EP9E
E-9
S
EP10S
S-13
E-10
S-11
SP11N
SP9W
SP9E
S-9
SP13N
S-10
SP10N
E-11
EP11N
SP10S
SP13S
SP11S
SP14W
SP14E
S-14
SP12W
SP12E
S-12
EP11S
S-17
SP17W
SP17E
S-18
SP18W
SP18E
SP21S
N-8
X=40,716
Y=-69,610
6
7
9
10

図（1）

A
B
C
D
E
F
G
SP1N
SP1S
S-1
S-2
SP2N
SP2S
SP3W
SP3E
S-3
E-3
EP3N
EP2W
EP2E
E-2
EP3S
EP1W
EP1E
E-1
S-19
SP19N
E-4
EP4N


0
4
8 m
G-8
X=40,744
Y=-69,610
S-21
SP21N
S-4
SP4N
EP5W
EP5E
E-5
SP5W
SP5E

付図 2　遺跡全